■第2回ローバーシンポジウム基調講演

国際化社会の中で、若者に期待すること

盛田昭夫

盛田昭夫 1921年愛知県生まれ。44年大阪帝国大学理学部物理学科卒業。46年、井深大(現ソニー株式会社名誉会長)とともにソニーの前身、東京通信工業設立。ソニーの副社長、社長を経て76年より会長。ほかに経団連副会長を務める。82年英国王立芸術協会から日本人初のアルバートメダルを受賞。
著書に『MADE IN JAPAN』、『学歴無用論』、『新実力主義』。

世界中の選挙区で選ばれるために

みなさま、こんにちは。今日、ここへ来てお話ができることを、私はたいへん嬉しく思います。ただひとつ、皆様方にお話する題「若者に期待すること」というのは私が老人であることを示しておるようで残念です。と、いうのはですね、人間が昔話をするようになったということは、年をとった証拠だからです。子供は昔話は致しません。子供はいつでも「将来は何をしよう」と夢を話します。もう私の年になると大きくなったら何になろうということは話せません。昔の話がどうしても多くなるのであります。やっぱり一生には限りがありますから、自分の人生で、長い方に関心が向くのであります。私は過去の方が長いわけですから、どうしても昔話をしたくなるのであります。でも、私がここへきて昔話をするというのは、ほんとうは好ましくないことですし、やりたくないことであります。私はこれからの話をしたい。それは、あなたがたにこれからどうして欲しい、ということなのです。

まず、私が第一番に言いたいことは、皆様方のように、いろんな国の方が一緒に生活を共にするということは、素晴らしいことだということです。実は、ちょうど二か月前にアメリカのコロラド州でワールドフォーラムという会議がありました。そこに、アメリカ、フランス、ドイツ、イギリスの政治家やビジネスマンが集まって会議をやりました。そこで、その政治家たちが各々の国を代表して自分たちの国、また自分たちのテリトリーの考え方というのを論じました。日本からはわずか三人しか出席しませんでしたから、私が日本を代表して話をしました。そのときに私は「私は政治家ではありません。従って、自分の国、自分の選挙区というものは持っておりません。しかし、私の選挙区は世界であります。世界中の選挙区から選ばれなければ、私はビジネスマンとして勝てないのであります」と、言ったのです。

私の選挙区の中にはいろんな言葉を話す人がいます。習慣も歴史も違う人たちがおります。政治家は演説をしたり、握手をしたりして選挙区の人たちと親しくなります。しかし、私はビジネスマンですから、世界中の選挙区のなかで選ばれるためには、ほんとうにいい製品を供給しなければならないのです。そうすることで私たちは勝てるのです。ただものを作るのではなく、ほんとうに良い製品をつくることが、私たちがその世界中を選挙区とした選挙のなかで選ばれるただ一つの方法だと思って、私たちはやってきたのであります。私は今日ここでソニーの宣伝をしにやってきたのではありません。どういうふうに我々が考えてやってきたかということをみなさんに分かっていただきたいのであります。

ところが、今、良いものを作れば売れるかと言いますと、それだけではありません。一番大事なことは、買う人がこれに価値があると「分かる」ことなのです。

コミュニケーションの訓練を

それでは「分かってもらう」ということはどういうことかと言いますと、「こういう便利な製品をつくりました」ということを、世の中の人に分かってもらおうとする、一つの「コミュニケーション」であるということです。私が考えてることを、みなさんがたに分かってもらうように「伝えること」、これができなければビジネスは広がっていきません。

では、どうしたらほんとうに良いコミュニケーションができるか。私は、テレビを作っておりますから、今テレビを例にとってお話をいたしますが、テレビにはチャンネル1から今やチャンネル80までたくさんあります。私がたまたまチャンネル4の放送局として、チャンネル4の電波をだしても、みなさんがたのチューナーがチャンネル4にあっていなければ、私の波は受信できないのであります。皆様方の心のなかのチューナーが何チャンネルに合っているかということを見極めて、それにあった波を出さなければ私のメッセージはみなさんがたに伝わらないのであります。スピーチでも、セールスでも、コミュニケーションというものは、お互いに同じチャンネルの電波を同じチューナーに合わせてなければ、伝わらないのであります。

今、日本は経済大国として成長いたしました。それにもかかわらず、日本はいろんな意味で外国から批判をうけております。なぜ、批判をうけているか。これは日本人はコミュニケーションというものが、あまりにもへただからだと思うのであります。

日本ほど「国際化が必要だ」といっている国はないのです。みんなが国際化だと言っており、ホテル、バス、なんでも国際、国際といっております。それでは国際化ということは何か。私はよその国の人たちと本当にコミュニケーションできるかできないかということだと思うのであります。いくら自分が良い考えをもっていても、その考えがよその国に伝えられなかったら、国際化しているとは考えられません。

確かにいろいろな国をみますと、相手が悪いこともたくさんあります。しかし、一方で我々の努力が不足であることがたくさんあります。これから世界のなかで暮らしていくために、私たちがどういう考えを持っているか、また、これからどうしようと思うかということを、よその人に分かってもらうコミュニケーションの技術をよくしなければならない。それには、彼ら外国の人たちの考え方と同じような考え方で、ものを言ってあげなければならないのであります。

我々日本人が、あらゆる国の言葉をはなすことは出来ません。外国へ行って、言葉が通じないときには通訳に頼らなければなりません。しかし、私たちのメッセージがいくら直接その国のことばに変わっても、ほんとうに外国の人たちがものを考えるようにうまく順序だてて言ってあげなければ、言葉は通じないのであります。と、いうのは、外国語と日本語というのは表現の順番が違うのであります。ひとつひとつを立派な言葉に直しても、順序だてが違っていると全然通じないのであります。何語でもしゃべれるようになれ、と言っているのではありません。要するに外国の人たちが分かるようないい回しでものが言えるか言えないかというところが、最大のキーであります。発信側と受信側の周波数がぴったりあっていかなければならないのです。

日本人は、だいたいテレビでいえば1チャンネルから3チャンネルぐらいしか種類がないのです。ですから、2チャンネルで発信しても、3チャンネルに合わせたチューナーでもちょっとはいるし、1チャンネルに合わせたチューナーでも少しは入るから、なんとなく通じています。それが日本社会であります。ですが、これが外国に行った場合は全くチューナーの種類も違うし、ウェーブの種類も違うのです。その人たちとコミュニケートできるようになるということは、私は国際化のベイシックなポイントだと思うのであります。

このシンポジウムのようにこれだけのたくさんの国の人たちが一緒に暮らして、そして、お互いにコミュニケートの努力をするということが、ほんとうに私は大事なことだと思うのです。日本の方々にお願いしたいのは、外国の人たちがどういうふうにものを言ったら、一番よく分かってもらえるかを理解すること。そして、外国の方々にお願いしたいのは、日本人のものの考え方の順序が違うということを理解していただくことです。そういう習慣の日本人を理解するには、我慢しなければなりません。やはり、日本人は何を言いたいのだろうかと分かるには、最後まできいてあげなければいけない。

それを、外国の方々も努力してほしいというのが、私のお願いであります。両方が努力することによって、コミュニケーションというものがよくなると思うのであります。「国際化」ということは、そういうことだと思うのであります。

国際情勢を見ておりますと、お互いに批判することの方が先にきております。自分が正しいと思うから、相手のやりかたがおかしいという考え方は、私は根本的に間違いだと思います。各々の国に事情があるのですから、なぜそういう行動をしたかという理由があるわけですよ。それを理解しあうということが、私は国際化であると思うのです。それはやはり、若い時代から自由に、柔軟に考える習慣が必要だと思うのであります。

好奇心を失うのは危険なこと

私自身、常日頃なんとかフレキシブルな、柔らかい頭を持っていたいと努力をしております。私は年をとるにつれて、なるべく若い人のやるスポーツをやりたいと思って、五十五歳になったときテニスを始めました。テニスをしている間に、足がだんだん丈夫になり、六十歳になったときに、その強い足を使う運動をしようと思い始め、スキーを始めました。

六十五歳になったとき何を始めようかな、と思っていましたら、私と同じぐらいの年のアメリカの友人が「自分の別荘には湖がある。そこで自分はウインドサーフィンをやっている。教えてやるからやらないか」というもんですから、私は六十五歳になったときから、ウインドサーフィンを始めました。その人の別荘にあるレイクは非常に静かですから、快適にウインドサーフィンが楽しめます。

去年の初めにNHKのテレビに出まして、その話をしておりましたら、私をインタビューした人が「あなたは今度何をするか」と言う。私は実はしたいことが一つありました。それはスキューバダイビングです。なぜかと言いますと、ダイビングというのは、人間が三次元に動ける唯一の方法であるからです。私はしょっちゅうヘリコプターに乗ります。今日もヘリコプターで来ました。ヘリコプターは確かに三次元にとびます。しかし、あれだけ大きな機械の中にいなければ、三次元に動けません。ところがダイビングは三次元に動けるわけです。私は昔から一度はスキューバダイビングをしてみたいと、思っておりました。ですから、スキューバダイビングと言ったのです。

なぜそういうことをしているかというと、それは「新しいことをやってみたい」という興味からなのであります。子供はいつもキュリオシティ（好奇心）に満ちております。私のところにも四歳、五歳の孫がおりますけども「これはなぜ」と次々に質問をします。もうそれに答えるのに口がくたびれるほど、子供は「なぜ」と聞いてその聞いたことを全部覚えていくわけです。あれで、子供はどんどん成長していきます。ところが、大人になりますと「なぜ」ということを聞く人が少ないのであります。私は、これは非常に危険なことだと思うのです。人間はいつでも「なぜだろうか」と好奇心を持っていることによって、新しいことを考え、新しいことを知ろうとするのであります。皆様方はまだ若いんですから、好奇心の固まりだと思います。いつも「なぜ、なぜ、なぜ」ということを考えてほしい。そして新しいことを、一つでも多く知ろうと思ってもらいたいと思います。その好奇心がある間は人間は進歩をいたします。で、先程申し上げましたように、コミュニケーションが大事であると同時に、キュリオシティというものが人間を進歩させる一つの重要なベイシックなものだと思うのであります。

その、好奇心をいつももって新しい境地を開拓していくことによって、自分の考え方が前へ前へと進んでいくわけですから、「なぜあの人はこういう行動をするんだろうか」と考えることは自分の行動をもう一度考えることになると思うのであります。すなわち「鏡を見る」ということであります。

自分の人生は自分の責任

私が次に言いたいことは、自分がいつも鏡を見るように自分の行動を考えなおしてもらいたい、ということです。他人の批判はよくするけれども、自分は全く勝手気ままな行動をしているのは良くありません。他人は批判するけれども、自分は他人の迷惑など考えずに動いていく。そういう国もあります。私は、ボーイスカウトの精神に最も反していると思いますけれども、実際の社会ではそういうことをする人もあるわけです。これは人間として非常に危険なことであると思います。

自分が相手にどう見えるかと考えることが鏡を見ることであります。それによって自分自身のコントロールができるのです。これが、私の皆様方に対する三つ目のお願いであります。

もう一つあります。四月一日に、私どもは入社式をします。私がそのときに話すことは「人生は二度とないよ」ということであります。死ぬ前に、自分の人生を考えて見て「ああ、自分の人生は満足だったなあ」と思って死ねる人は幸せだと思うのであります。私は我が社に入ってきた人たちに「人生は二度とないのだから、死ぬときに『若いときにソニーみたいな会社にいて残念だな』と思ったら、あなた自身が不幸です。これから三か月間の試みの期間『ここの会社に勤めて将来残念に思わないか』ということをよく考えてみて下さい。もし、ここにいるということを決めたら、それはあなたのディシジョン（決定）で、自分の人生に悔いが残らないように自分自身に責任を持たなければならないのです」ということを言いました。皆さん方もこれから新しい人生に一歩一歩踏み出していきます。その人生の道は、あなた自身が決めなければならないのであります。

あなた方はこれから四日間ここでみんなといっしょの生活をするわけです。ほんとうにこの四日間があとで良かったと思えるようにするかどうか、あなた方の責任であります。自分が自分の人生を決めるんです。しかし、自分だけで生きていける世の中ではありません。大勢の人の中で生きるんですから、自分が幸せになるためには、回りの人も幸せにすることが一番大事だと思うのであります。それが、社会の一員というものであります。

日本は国際社会のなかでこれだけの経済大国になったのだから、世界のためにやるべきことがまだたくさんあると思うのです。私が日本人として残念に思うのは、日本人にその自覚が足らないということです。国際社会の中で、日本人の果たすべき役割、また任務ということがあるのです。

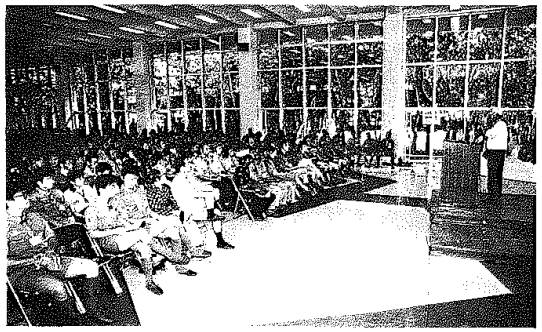
日本ではよくハーモニーという言葉を使います。日本の政治家も外国へ行くと、お互いに協調の精神でゆきましょうと言います。ところが、協調の精神をほんとうに分かっている人は少ないのです。自分のやりたいことをがまんしても相手を楽しくしてあげることが協調の第一歩であります。自分はがまんをする覚悟がなければ協調はできないのであります。そこのところを日本人はよく分かっていないと私は思います。日本は、ご承知の通り島国です。ヨーロッパのようにちょっと行くとすぐ違う言葉、伝統を重んずる人たちがいるところとは違います。そこにはがまんが必要で、それができないから戦争ばかりしていたのではないでしょうか。しかし、ついに協調しなければいけないというので今、ユニフィケイション（単一化）が話し合われているのです。違った伝統を持った人たちが一緒に暮らした経験のもとにやっとそこまできたわけであります。日本人はこういう島国で育ってきてしまったせいか、わりと身勝手にやってこれたのであります。

ところが、今や世界は小さくなり、我々が勝手なことをするのは許されなくなりました。今度は自分のわがままをがまんをして協調すること、これが世界の中で日本がうまくやってゆく非常に大事なことであります。それが私の四番目のお願いです。

そういう一つ一つのことをみなさんが十分理解していただいて、国際化した社会の中の日本として、また日本人として立派に育っていただきたいと思いますし、今日来られた外国の方々もお互いにそのような気持ちで日本を理解していただきたいのであります。いつまでも良い友情を結んでいただくことが、世界の平和のためになると信じております。

☆

私は今日ここで皆さん方にお話する機会を得ましたので、私の思っている「どうしたら世界の中で日本がうまくやってゆけるか」「これからの若い人たちにどう考えていただきたいか」ということをお話致しました。皆様方が最後まで熱心に聞いて下さったことを感謝致します。



◀熱心に聞きいるローバースカウトたち